上田女子短大・上田西高主催

# うえだ七夕文学賞

## 入賞した子どもたちに表彰状

### 各学校を訪れて賞状を手渡し

上田女子短期大学と上田西高校が主催する「うえだ七夕文学賞」で入賞した子どもたちへ、同大と同高が昨年12月に学校を訪ねて表彰状を贈りました。

出張表彰式は、コロナ禍のため一堂に会した式ができないことから、一昨年に続き行われたもの。上田西高は多数の応募により学校特別賞を受賞した御代田町の御代田中学校を訪ねて表彰式を開き、上田女子短大は上田市塩田西小学校と同市の幼保連携型認定こども園「にしおか」、東御市の滋野小学校を訪ねて受賞児童に表彰状を手渡しました。

滋野小学校では、リズム感あふれる詩「夏の大きな青空に」で自由詩部門・教育長賞を受賞した矢野明音さん（6年）と短歌入選の久保遥愛さん（同）、俳句入選の関愛美さん（同）に校長室で表彰状と副賞を授与（写真）。

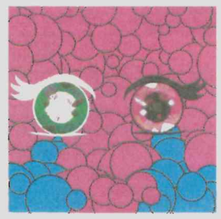
矢野さんの詩「夏の大きな青空に／一つの大きい／入道雲／もくもくもく／もくもくもく／夏の大きな青空に／一つの大きい／太陽が／ギラギラギラ／ギラギラギラ」はリズム感あふれる作品で、「家の近くで見た青空のイメージです」。

同校の吉澤基校長は、「3人とも受賞を励みに、才能を伸ばし育っていってほしい」と話していました。

## 上田地域こどもCGコンクール

### 入賞者を表彰

●過去最高の553点の応募から選定



創造性を育み情報技術への理解の向上を図ろうと、上田市マルチメディア情報センターが開く「上田地域こどもCGコンクール」の表彰式が昨年12月18日に同センターで開かれ、保護者が見守るなか入賞者6人に表彰状と副賞の図書券が贈られました。

第7回の今回は、過去最高の553作品の応募があり、最優秀賞は円で構成した赤と青の背景に目をクローズアップして描いた山岸祐貴さん（第二中2年）の「め」（写真下）が受賞。優秀賞は小学5年生と2年生のユニークな5作品に贈られました。また小学1年生から6年生までの児童が作った多彩な12作品が入選に選ばれました。

白と黒と灰色の太い筆跡で原爆の炸裂した瞬間を描いた「忘れかけているあの恐ろしい原爆の日」で優秀賞を受賞した森垣結陽さん（中塩田小5年）は、「授業で原爆について勉強して、忘れてはいけないと思って作りました」と話していました。

審査委員長の清水卓爾さんは「553点のうち中学生が2点で、あとは小学生の作品。全体に質が向上し低学年のレベルアップが目立った」と講評。「今後も素晴らしいCG作品を作ってほしい」と呼びかけました。

# 「蚕都上田」の輝きと未来

## お蚕様と神様⑧

### 上塩尻の座摩神社

信濃史学会会員　阿部　勇

上塩尻の座摩神社は養蚕の神様として広く知られています。昭和30年代までは盛大なお祭りがありました。

八十八夜座摩神社祭りでは、お舟のお練り（山車）や奉納相撲大会、仮装行列、演芸大会などが催され、東北信はもちろん、上州からも人びとが押し寄せたといいます。

その様子は1999年発刊『塩尻地区写真集』に載せられています。大正初期と推定される「座摩神社祭典の素人相撲の土俵に群がる参拝客」写真からはむんむんとした熱気が伝わってきます。

上塩尻の座摩神社

座摩の蚕神は「保食神」で寛政2年（1662）に現在地へ遷座し、文化9年（1812）に社殿が造営され、京都の吉田家から正一位養蚕国大神の社号を受けています。

「蚕影山別当東福寺」―「信濃国小県郡塩尻郷蚕影山鎮座座摩神社正一位養蚕国大明神尊像図」と記された絵の掛軸も残されています。いつの時代の軸かはわかりませんが文化9年以降のものでしょう。

上丸子の蚕影山は文化13年の分祀、文化年間には上田小県の蚕糸業（特に製糸）が急速に発展した史実（上田藩史料）と合致します。

困窮者に食料など無料提供

# 「0円スーパー、0円食堂」開催

## 丸子ライオンズクラブ等が実施

コロナ禍で困窮する住民を支援しようと昨年12月9日、丸子ライオンズクラブが企業や諸団体と連携して「0円スーパー」、0円食堂を長瀬市民センターで開催しました。高大生も含めた約80人のボランティアがサポートし、詰めかけた延べ数100人に食料や生活雑貨を配りました。

同センター内には各企業や農家・住民らから寄贈された米や野菜、インスタントラーメン、調味料ほか食料、トイレットペーパー・ティッシュペーパーなどの雑貨が並べられ、入場を制限しながら実施。11時の開始予定の1時間前から行列ができたため、時間を繰り上げて配布が始まりました。

同クラブ会長の柳澤正敏さんは「30社を超える企業団体から提供いただいた。盛況ほうれしいような悲しいような気持ちで、それだけ大変な状況だということ。たくさん持ち帰って、年末年始を穏やかに過ごしていただければ」とあいさつ。

小さな子ども3人を育てる女性からは「食料はとくにありがたい」との言葉が聞かれ、駐車場では日本赤十字奉仕団による炊き出しや灯油の配布なども実施。高齢者が持つ重い袋を自家用車まで運ぶ高校生の姿も見られました。

## 陽葉（ようよう）

雪景色となった元日。初詣の人出は結構な賑わいでした。各寺社では雪道に行列が。「今年こそは光の見える穏やかな年であってほしい」―多くの人がそんな願いをこめ手を合わせたのでしょう◆コロナ禍の酷さは人と人の交流を奪ってしまうこと。本紙に寄せられた読者の便りも子や孫、高齢の親、友人など〝会いたい人に会えない〟という心情を記したものが多く見られます。感染拡大が一時収まった昨秋、各地で2年ぶりに開かれた祭りに溢れた笑顔の数々、華やいだ会話が印象に残っています。この正月、思いはかなったでしょうか◆まずは感染症を乗り切り日常を取り戻すことが喫緊の課題ですが、コロナ禍で明らかになった不正義とひずみも検証し是正しなければなりません。孤立した人間が落ちこんでいく暗闇。それが一因ともなった悲劇を未然に防ぐためにも、支え合い〝もう一度やり直せる〟と思える社会が必要です。どんな世界を子や孫に受け継ぐのか、考え直す機会です。（M）

●四季・浅間山麓
松井勝男写真展
～2月10日㈭　上田プラザホテルエントランスまちなかギャラリー（松尾町）
入場無料
※終日観覧可
▼松尾カメラ
☎㉒2029

話題の「塗るグルコサミン」

# 脊柱管狭窄症（坐骨神経痛）が急増中

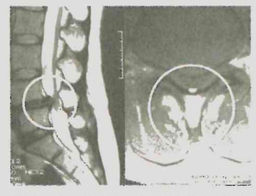
## ちょっと漢方 Chinese Medicine

狭窄症は「腰、おしりから膝にかけて、体の後ろ側に痛みやしびれがある」「立っていたり歩いていると、脚に鉛が入ったようにだるく、重くなり、時には痛くなる」と訴えます。歩くうちに症状が強くなり、足が前に出せず、動けなくなりますが、しゃがんで休むと、症状が軽くなってまた歩けるようになります。「手術前に、何か試せることはないか」「手術したのに再発した」「もう昔のように歩けないのか。家族に迷惑をかけながら、残りの人生を過ごすのか」―。

「塗るだけなので、飲み薬が増えない」「湿布のように、かぶれない」「飲み薬と併せて使える」などの理由から、一度〝塗るグルコサミン〟を試されては如何でしょう。〝塗るグルコサミン〟との出会いは健康雑誌の紹介記事を目にした事からでした。「米国で2100万個の販売実績」「5日間試用した体験者の7割以上が痛みの改善を実感！」。にわかには信じ難い経験談が紹介されていましたが「薬剤師の自分が使ってみて」と、製品を取り寄せてみました。

試すとベタつかず臭いも無く、ス～っと肌の深部に浸透していくような使用感は未体験、かぶれの心配も無さそう。しかし私自身に痛みは無く効果の程は半信半疑でした。しかし、しばらくして効果を認めざるを得ない出来事に遭遇したのです。

筆者の長女の高校では、長野へ歩く〝強行遠足〟という伝統行事があります。その二日前、長女が階段を足を引きずるように上って行きます。尋ねると、ひざを痛め歩くのもままならないとの事。そんな時、たまたま食卓の上に置いてあった〝塗るグルコサミン〟を「これ、塗ってみるね」と持って行きました。あまりに辛そうだったので「欠席届けを出さなければ」と思っていたのですが、翌朝「お父さん、このクリーム凄いね♪」と軽やかに階段を駆け下りて来るではありませんか。そして次の日、何事もなかったように小海までの43.2キロを走破したのでした。



5日間の使用で7割が改善！？

日本東洋医学会会員・輿水秀之＝臨床漢方薬局ナオル薬品・甲府市住吉5-11-8-26
☎0120-61-3211
FAX 055-241-3213